

『障害児と共に地域で生きる』

ということとは……………

六年P 明石洋子



八月、読売新聞(関東版)に「何が裁かれたか(ある自閉症児殺しの背景)」と題して、十二回連載されました。「子供を私物視する親の身勝手な犯行」と論告した検事の判決に、殺した母親を弁護するつもりではありませんが、ただ母親が十二年間苦勞して育てた我が子を殺さざるを得ない様に、孤立化し、視野をせばめ、子を私物にしてしまった状況もひしひしと分り、胸つぶれる思いで記事を読みました。

障害児が不幸と思えるのは、その障害ゆえでなく、ことうした子供がのびのびと、地域の中で生きていけないからではないでしょうか。障害がある故に、家庭に閉じ込

めてしまう事なく、将来自立する社会に少しでも慣れる為には、地域社会の中に飛び込んで経験を出来る限り多くしなければと考えます。

共に生きて行く社会の方々とはふれあい、ありのままの姿を正しく理解してもらい、加えて障害児が活動できる場を少しでも多くと願って、私はキャンプや水泳教室、アイススケート教室等、開催しておりますが、ふれあい、正しく理解して初めて、お互いへの思いやりは、本物となるようです。この事件で「障害児を生かすも殺すも」親の生きる姿勢と、その親を支える周りの人達の思いやりひとつだと痛感しました。

障害を持つ事自体、とても不幸な事かも知れません。でも周りの方々の受けとめ方によっては、より不幸にもなり、又、反対に幸せにもなれるのではないのでしょうか。私は母親として、この子をこの世に送り出した以上、たとえ規格はずれであっても、人から愛され、人間らしく生きて欲しいと願っております。

脳の認知が十倍、もしくは百倍悪いのなら、十倍、百倍多く働きかけ、経験を豊富にし、学習させねばならぬいでしょう。現在、北川副小学校で理解ある先生のご指

導のもと、豊富な働きかけをしてくれる級友、暖かく見守り、励まして下さるお母様方、多くの人達のおかげで、微々たる進歩ですが、順調に発達し、明るく人に好かれる子に育っております。

受けとめてくれる場の無かったこの事件の母親の環境なら、私も同じ道をたどったかも知れません。でも主人をはじめ、私を支えて下さる多くの方々のおかげで、私はこの子と共に明るく生きていけました。小さな発達の芽を見い出しては喜び、周りの方々の暖かい思いやりに感動する日々を送れます事を、幸せに思っております。

私は自分の無知ゆえに、子供の養育を誤らせてはならないし、又社会の自立を目的とするなら、「自分の子だけ、障害児だけ、」との利己的な態度では、親子共々、社会に受け入れてもらえないと思い、広く世間をみる為に、ボランティア活動をしています。

今春、佐賀市福祉大会で、体験発表をさせて頂きました。私がいるんな社会勉強ができ、有意義な人生になっています。この子を授かったからだと思います。人は、当たり前前の人生が、当たり前前でなくなった時、多くを学び、成長するのではないのでしょうか。

この子のお陰で、家族全員が、より多くを学んでいけると思っています。この事件を深く知れば知る程、親の生き方と、周りの皆様の暖かい思いやり、励ましが、とても貴重な宝物に思えます。この宝物を大切にこれからも生きていきます。もし道で出会いましたら、笑顔で声をかけて下さいませんか。そうすれば、私達は一層、幸せになれるでしょう。

